令和５年度
劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化）
成果報告書

団体名		公益財団法人アクロス福岡
施設名		福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）
助成対象活動名		普及啓発事業
内定額(総額)		1,429 （千円）
	公演事業	0 （千円）
	人材養成事業	0 （千円）
	普及啓発事業	1,429 （千円）

１．事業概要

（３）令和５年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数（人）	
1	アクロス学校キャラバン	2023 年 5 月 12 日～ 2024 年 2 月 9 日 福岡県内小学校 特別支援学校	出演： 佐藤仁美、高橋かおり（Vn） 田中美江（Pf） 村岡慈子、岩崎雅子、若菜陽子 吉田美奈子（Per）	目標値	1,000
				実績値	801

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

２．自己評価

（１）妥当性

自己評価
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
福岡県の文化振興の拠点施設であるアクロス福岡が「地域の中核劇場・音楽堂」として３つのミッション「感動体験の提供」「一緒に成長する」「みんなが参加する」ことを設定し、採択事業を適切に実施した。 今回「普及啓発事業」として採択された「アクロス・学校キャラバン」では福岡県内の小学校と特別支援学校にアウトリーチ事業を実施。障害の有無や経済状況に左右されることなく、あらゆる人が等しく文化を享受できる社会包摂事業を遂行した。 **【ヴァイオリン＆ピアノ】　９回　※当初予定１１回** **【バロックフルート】　０回　※当初予定　３回** **【パーカッションアンサンブル】　１１回　※当初予定１０回** **合計：２０回実施（※当初予定２４回）　△４回の減** 当初は２４回程度を想定していたが、未だ感染症の拡大を考慮し、受け入れに慎重となった学校が辞退。結果、バロックフルートのプログラムは無しになり、実施回数も減少してしまった。 それでも感染症の影響による実施回数の減以外は、ほぼ当初の予定通り適切に事業を実施することができた。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
【文化的意義】 小学生や障害をもった児童を対象とした派遣型ワークショップを実施する意義は、一般的に子どもたちは一流の演奏家による生演奏を体験する機会が極めて少ないからである。特に障害がある場合には、その体験機会が限られてしまう。よって、音楽鑑賞とともに実際に楽器に触れながらのワークショップを交え、次世代の子どもたちに一流演奏家の生演奏を聴く機会を提供することにより、地域の芸術文化振興、音楽普及を可能としている。 【社会的意義】 アウトリーチ活動は地域からの希望も多く、県内遠隔地へも多くの回数を実施している。また、特別支援学級・学校への訪問では、対象者によって内容を変えるなど臨機応変に実施し、信頼を得ている。 【経済的意義】 当アウトリーチ事業は学校への訪問なので、経済的意義は限られてしまう。しかし、ステークホルダーへの経済的波及効果は多岐にわたり、演奏家はもちろん、持ち込み楽器のメンテナンス費用や移動交通を伴う楽器運搬費などで貢献があった。

（２）有効性

自己評価
目標を達成したか。
【目標①】「学校キャラバン」への目標応募校：４５校 指標：令和４年度事業より１０％増加（令和４年度実績４１校） 実績：目標４５校に対し４２校の応募（達成率９３％） 【目標②】特別支援学級や特別支援学校の目標応募校：１５校 指標：令和４年度より１０％増加（令和４年度実績１４校） 実績：目標１５校に対し１５校の応（達成率１００％） 【目標③】ワークショップを通じて、参加した生徒自らが「新たに発見できたこと（意義）」があったか？ 指標：令和３年度実施済みのアンケート結果（あった６０９人【５９％】 なかった４２５人【４１％】） 実績：令和５年度アンケート（あった６３８人【７９．７％】 なかった１６３人【２０．３％】） 地域の中核劇場として、アウトリーチによる音楽普及を推進。文化芸術への参加、鑑賞機会の提供を県下全域で計２０回実施した。 具体的には、小学生を対象とした派遣型ワークショップを実施。一般的に子どもたちは、一流の演奏家による生演奏を体験する機会は極めて少ない。よって、音楽鑑賞とともに実際に楽器に触れながらのワークショップを交え、次世代の子どもたちに一流の演奏を聴く機会を提供することにより、音楽のすばらしさを伝えることはもちろん、音楽による交流を通して地域への音楽普及を図った。また、障がいのある子どもたちに楽しんで参加できるように、「パーカッション」によるワークショップも実施。（１１回実施） 目標を応募数の増加を目的に設定し、特に特別支援学級からの応募は目標を達成した。（達成率１００％）。参加した生徒によるアンケート結果（新たに発見できたこと）も、令和３年度に実施したときから、大幅に成果が上がっている。

（３）効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
普及啓発事業「アクロス・学校キャラバン」 ◆事業期間 計画：2023 年 6 月より 2024 年 3 月予定　実施予定回数 24 回 期間：2023 年 5 月 12 日より 2024 年 2 月 9 日まで計 20 回実施 　要望当初の計画 24 回予定は、受け入れに慎重となった学校の辞退により 20 回に減少となったが、変更後は計画通り実施することができた。準備は前年度 1 月より実施。出演者の日程調整等を実施後、公募を実施。各学校の新年度が始まる 4 月のタイミングで実施学校を確定させ 5 月より事業を開始した。終了まで 12 か月に及ぶ事業であった。事業期間としては、学校行事に合わせた計画となるため適切だったと考えられる。 　想定した参加者数については、1 回あたり 30 人～50 人程度を想定していたので、24 回で 1,000 人を目標とした。しかし実施回数 20 回となり、結果 801 人が当事業に参加した。 　当初の目標参加人数には届かなかったが、1 回当たり 40 人程度の事業となり、体験型のワークショップとして適切な人数で実施することができた。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。
事業費について、要望時予算額より減額となった。実施回数が減少したため、出演料、楽器運搬費の支出が減となった。 実施回数が当初より 4 回減少。（24 回予定から 20 回へ　変更率 83%） 事業費：3,119 千円（変更率 88.7%）　実施回数が減少した分、適切に支出した。

	要望時予算額(千円)	実績額(千円)	変更率
事業費の総額	3,513	3,119	88.7%

（４）創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。
地域の文化拠点として、県内のアウトリーチ事業「アクロス・学校キャラバン」を実施した。地域の期待に応えていくため、特に関係団体との連携・協働を図った。 ●文化拠点としての機能を最大限に発揮するための【資源】 （１）劇場音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物 ・安永徹（ヴァイオリニスト）：元ベルリン・フィルハーモニー交響楽団、福岡シンフォニーホール監修者 当施設のメインホールである「福岡シンフォニーホール（アクロス福岡）」は、福岡出身の安永徹氏が監修者として設計に参加し完成した。このホールの効果を最大限に生かすため、特に弦楽器の響きに注目した事業を実施し、若手奏者の抜擢など後進の育成にも貢献している。アクロス福岡がヴァイオリンセミナーを実施するにあたり、講師を推薦いただいた。 ・景山誠治（ヴァイオリニスト）：桐朋学園大学教授、アクロスヴァイオリンセミナー講師 アクロス福岡では定期的なマスタークラス「アクロスヴァイオリンセミナー」にて若き才能の発掘に力を注ぐほか、「アクロス弦楽合奏団」の中心メンバーとしても活躍。当助成対象事業である「アクロス・学校キャラバン」では、永らく演奏者、企画者として活躍。現在も出演者（演奏者）選定等で関わっている。 （２）関係団体との協働 ・九州交響楽団：「アクロス・学校キャラバン」奏者の選定・派遣。（ヴァイオリン：佐藤仁美） 九州交響楽団は定期演奏会で当ホールを利用。前日リハーサル会場を当財団で提供。同じホールで前日リハーサルができるため、音作りの面で貢献している。「アクロス・学校キャラバン」へは、九響奏者を派遣いただいた。 （３）創作活動に関わる建築設備等 ・福岡シンフォニーホールは、世界的演奏家の名演を支えてきた九州を代表する音楽ホールのひとつ。音響の良さに定評をいただいている。開館 25 年目を迎え、大規模な改修工事を 2021 年 8 月より 14 か月間実施した。ホール内にエレベーターの新設工事や、優先トイレへのオストメイト対応工事など、年齢や障害の障壁を取り除き、誰もが安心・安全に利用できるホールを目指している。「アクロス・学校キャラバン」で訪問したアウトリーチ先の学校関係者・児童が、安心・安全に当ホールの公演事業に来館されることを期待する。 ●文化拠点としての機能を最大限に発揮するための【事業】 普及啓発事業である「アクロス・学校キャラバン」では地域の小学生や特別支援学級・学校に訪問する体験型のアウトリーチ公演を実施した。この学校キャラバンは、鑑賞型事業だけではカバーできない地域や障害を持った児童に対する企画である。ホールに来場する機会を持たない・持てない方々に向けて実施している。実際に楽器に触れながらの体験型のワークショップも交え、子どもたちに一流演奏家の生演奏を聴く機会を提供することにより地域の芸術文化振興、音楽普及・振興の拡大につなげている。 また、地域の特性として多くの芸術団体が活躍しており、プロ・アマチュア問わず当文化施設（アクロス福岡）も密接に関わっている。これまでも地元の九州交響楽団や、福岡県内高等学校の吹奏楽部などとも協働して事業を実施してきた。今後もアクロス福岡が培ってきた多様な演奏家・音楽家による事業を、地域で実施していく。

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【ステークホルダーの期待】

地域の文化拠点として、当助成対象活動の「普及啓発事業」として採択され実施したアウトリーチ事業「学校キャラバン」を実施した。

区分	連携・協働先	連携・協働内容
音楽団体	九州交響楽団、西日本オペラ協会　など	地元プロの音楽団体との信頼関係の構築、共同事業の実施
行政	福岡県、福岡市	世界一流の演奏家から、地域に根ざしたもの、社会包摂事業などをバランスよく協働して企画
マスメディア、民間事業者	新聞、TV、ラジオ、ネット 一般企業	・広報、宣伝 ・共同主催、共催、協賛方式による事業量の確保
ボランティア	ボランティア、NPO法人 とびうめの会	・公演事業の協働運営 ・文化芸術に携わる人材の育成

協働先	内容
福岡県教育委員会、 県内市町村・文化施設	学校現場へのアウトリーチ「学校キャラバン」 ほか

【地域の文化芸術の発展につながったこと】

◆「アクロス・学校キャラバン」事業の参加者（児童）からのアンケート抜粋

・ヴァイオリンは、はじめての体験でうまくひけるかわからなかったけど、楽しかった。

・力を入れないと音が出せないと思ったが、ほとんど力はいらなかった。

・きれいな音がしたのでうれしかった。マリンバをたたけてうれしかった。

・音楽って人の心を楽しませてくれることを知った。

◆特別支援学級・学校の先生からのアンケート抜粋

・初めてのこと、初めての人に対して苦手なことが多い児童ですが、「いやだ」といいながらマリンバを押したり、たたいたりすることができていました。

・集中力が続かずご迷惑をおかけするのではと心配していましたが、皆さんの演奏やお話に子どもたちが引き込まれておりました。

・観て楽しい、聞いて感動、動いて発散、始めから生徒も演奏に引き込まれる姿が見られました。皆様の随所にみせられる見せ方、聞かせ方の工夫にも感心し、知らない楽器や音、観覧の姿勢も学びになった時間となり、大人も一緒に五感で楽しませていただきました。

以上のように、「アクロス・学校キャラバン」事業は、地域のこどもたちによる文化芸術の発展に非常に効果的であることが示された。今後も、こどもたちの興味関心を引き出しながら、楽しく音楽芸術を学習できるように様々な活動を仕組み工夫して、地域の文化芸術の発展に繋げていく。

（５）持続性

自己評価
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

演奏家・聴衆・事業運営者など事業を支える人の育成を目指し活動していく。この社会的役割を遂行するためには、持続可能な運営体制と財政基盤の強化が必要である。PDCA サイクルを用いて持続的に発展していくべく、以下の取り組みを行っている。

【人材面】

●職員の確保と配置

・アートマネジメント職員の採用（音楽の経験や企画・マネジメント能力のある専門的人材は不可欠）
芸術文化担当 7 名がアートマネジメント職員として活動。

●人材育成プラン（年間の研修計画を策定し、持続可能な人材育成に努める）

・「基本研修」財団を運営していく上で必要不可欠な知識習得を目的。（ミッションの共有、危機管理）

・「専門研修」業務上必要な専門性の確保。（全国公立文化施設協会や福岡県職員研修所への参加）

・「階層別研修」組織を担う人材を育成。（中堅職員研修、リーダーシップ研修、管理職向け研修など）

【財務面】

財務基盤の強化では、福岡県からの指定管理料のほか、福岡市からの「自主文化共催事業実行委員会負担金」の基、福岡県と福岡市が共催して行う文化振興事業の実施に充てている。自主財源を確保しつつ効率化を一層進めながら収支管理の徹底を行い、強固な財政基盤の確立を続けていく。具体的な効率化として、事業にかかる従来からのチラシなど印刷物による広報、情報提供、発信を見直し、WEB や SNS の活用を一層進め、また事務にかかる帳簿類の見直しを行い、ペーパーレス化を進めていく。一時的ではない長期的な視点で、環境・社会・経済に配慮した持続可能な事業運営を実施し、賛同者からの寄付金・協賛金など多様な財源を増やしていく。

【各方面とのネットワーク】

他施設との人材交流にも積極的に推進し、「九州類似ホール連絡会議（大分、佐賀、佐世保、福岡、熊本、宮崎、鹿児島など）」や「コンサートホール連絡会議（札幌、墨田、所沢、新潟、京都、福岡）」等へ参加し、事業連携に繋げている。

【施設面】

福岡シンフォニーホール（アクロス福岡）の 14 か月の大規模改修を実施。（2021 年 8 月 1 日～2022 年 9 月 30 日まで）ホールのエレベーター改修工事に伴い、障がいのある方や、高齢者を安全に効率的に誘導できるようになった。

また、トイレにはオストメイト対応の更新工事をするなど、1 階 2 階 3 階すべての階層にユニバーサルトイレを設けた。今後も利用者の目線に沿った安心できる魅力ある施設を持続的に維持・進化させていく。

■計画（Ｐ）と実行（Ｄ）に対する検証（Ｃ）と改善（Ａ）へ

これらの成果の検証・改善も必要であることから「職員人事評価シート」や「事業評価シート」の作成と面談や、外部からの「評議員会」による事業検証や、「公社等外郭団体経営評価」を実施。現状の能力や事業実績に対する改善を行い、新たな目標・計画に生かすサイクルを着実に回していく。